

Vol.76 2026年秋号

埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター

〒359-1133 所沢市荒幡 782 04-2939-9412 <http://www.ikifure.info>

左 / いろいろな落ち葉 右上 / マメガキ 右下 / ハラビロカマキリ

実りの色

冬の色

〜輝く命静かな眠り〜

秋分の日も過ぎ日暮れがどんどん早くなつていくのを実感する10月。残暑が続いていても暦の上では晩秋となります。

日本の秋と言えば柿が古くから親しまれ、柿にちなんだ色は20種類ほどあると言われます。色づき始めた柿の実のような色を洒落柿（しゃれがき）、秋の日を受け輝くよく熟した柿の实のような色を照柿色（てりがきいろ）、さらに熟しきると红柿色（べにかきいろ）。柿色は食べ頃の柿を、とりわけ濃い暗い橙茶を濃柿と表現しました。

団栗（どんぐり）も古くから親しまれ、当時それはクヌギの実。団栗を砕いた汁で染めたものは橡色（つるばみいろ）、それを鉄媒染で黒色を強めたものは黒橡で、庶民の衣服や喪服に用いられました。枕草子などに黒橡の袍は高官の朝服を飾る権威の象徴として登場していることから平安時代には評価が

一変したと思われる。

今も昔も秋と言えば紅葉。紅葉色（もみじいろ）は鮮やかに色づいた楓の葉色を表しています。平安時代には落ちて朽ちていく葉に朽葉四十八色と言われる数多くの色を見出しました。黄朽葉、赤朽葉、濃朽葉、淡朽葉（うすくちば）。そして枯草にも目を向け枯草色と呼びました。

12月は冬至を迎え冬本番へと向かいます。五行説で冬の色は黒。黒漆に由来する漆黒（しっこく）は黒の中の黒といえます。すべての色を吸収し内に秘めているかのようです。竜胆色（りんどういろ）から木枯茶（こがらしちゃ）へ、鮮やかな彩りにあふれた森は深緑（ふかみどり）の常緑樹と葉を落とした木々が静かに眠る冬へと向かいます。

サルトリイバラ
画 堅香子の会

センターからのお知らせ

《植物画で見る狭山丘陵の植物展》開催中！

センターエリアの植物を描き続けてくださっている「堅香子の会」の方々の原画を中心に狭山丘陵に息づく植物をご紹介します。

《Web 申し込み》を開始します。

10月よりWebにてイベントの申し込みを受け付けます。いきふれのホームページをチェック！

《所沢市民フェスティバル》に出展します！

「所沢市民フェスティバル」に出展します！所沢図書館吾妻分館さんにもご協力頂き、青空図書館と読み聞かせ、工作コーナーやはくせい展示などを予定しています。